

令和4年度山形県スポーツ推進計画の施策評価と今後の対応

| 基本方針 | 令和4年度取組状況 | 数値目標に対する評価・検証 H30→R6 数値目標 | 令和5年度の対応 |
|----------------------------------|--|--|---|
| <p>1 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進</p> | <p>1-1 ライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブと市町村などとの連携 <ul style="list-style-type: none"> 県スポーツ・レクリエーション祭の開催(新型コロナの影響で一部中止あり) 競技会部門:17 競技 1,948 人 交流会部門:4地区 170 人 市町村の高齢者介護予防事業を受託しての運動プログラムの提供 受託クラブ数:県内 12 クラブ 障がい者と健常者の交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> 障がいの有無に関わらず参加できる体験型の障がい者スポーツ教室を実施(県内4地域計7回) <p>1-2 学校の体育・運動部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒がスポーツをする楽しさを味わえる体育授業等の提供 <ul style="list-style-type: none"> 教職員を対象とした各種研修会を開催、指導資料の作成 運動部活動における「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」 <ul style="list-style-type: none"> 部活動の指導を担う部活動指導員の配置(中学校 94 校 112 人、高校7校 12 人配置) 「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」を目指した「運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会」の開催 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究等の実施 <p>1-3 スポーツに関わる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ指導者研修会等の開催による指導者や運営スタッフの資質向上 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ指導者研修会(県スポーツ協会と共催)…参加者 225 人 スポーツ少年団による指導者研修会…参加者 86 人 スポーツ少年団によるスタートコーチ養成講習会…参加者 241 人 | <p>成人のスポーツ実施率:60%(週1回以上) 30%(週3回以上) ⇒×未達成</p> <p>週1回以上:49.9%(R3:50.1%) 週3回以上:23.8%(R3:21.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成人のスポーツ実施率を上昇させるためには、各年代の生活スタイルに応じたスポーツ機会の充実が必要 スポーツ実施率の低い、女性やビジネスパーソンを対象とする事業の実施が必要。 <p>総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数:増加 ⇒◎達成</p> <p>21,300 人(H29) → 36,081 人(R3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者介護予防事業等の市町村からの委託事業への会員外の参加が増加した。高齢者介護予防事業を未実施のクラブに対して受託できるように働きかけが必要 <p>子ども(小学生)のスポーツ実施率(1日 60 分以上):60% ⇒×未達成</p> <p>小学生:41.1% (男子:50.6%、女子:31.6%)</p> <p>スポーツや運動が嫌い・やや嫌いである中学生:10%以下 ⇒×未達成</p> <p>15.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが楽しい、おもしろいと思うような指導が必要。 「YAMAGATA ドリームキッズ」育成プログラムや小学校低学年の「運動遊び」の例示となる指導方法を研修し、体育授業での活用を図る 地域や関係団体との連携による運動部活動の充実 「リーダーバンクやまがた」の登録者を増やし、部活動指導員の配置や、地域のスポーツ指導者の発掘を図る | <p>【スポーツ機会の提供】 スポーツ・レクリエーション祭において多様な種目を設けるため競技会部門への新規参入団体を募り、参加者数の増加及びスポーツ実施率の向上を図る。</p> <p>【総合型地域スポーツクラブの登録認証制度】 未登録クラブが登録要件を満たす公益性の高いクラブとなるよう、研修会等による支援の充実を図る。</p> <p>【体育教員等の指導者の資質向上】 各地区の実態に応じた研修会を開催し、多くの教員の体育授業の指導力向上を図る。 また、各学校の児童生徒の実態に応じた体力向上の取組「1 学校 1 取組」の充実を図ることで、「体育授業が楽しい」「運動やスポーツをもっとしたい」と思う児童を増加させ、子どものスポーツ実施率向上につなげる。</p> <p>【部活動改革体制整備事業】 引き続き、実践研究を実施し、中学校における休日の部活動の段階的な地域移行に向けて取り組みの推進を図る。 部活動指導員配置の拡充を進め、教員の働き方改革の推進とともに、生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築を進める。</p> |

| 基本方針 | 令和4年度取組状況 | 数値目標に対する評価・検証 | H30→R6 数値目標 | 令和5年度の対応 |
|---|--|---|---|----------|
| <p>2</p> <p>トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立</p> | <p>2-1 メダリスト育成への支援・強化策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック(開催が1年延期)でのメダル獲得に向けた有望選手への支援 ▶オリンピックメダリスト育成事業 (R2 重点集中強化11人) ▶パラリンピック等メダリスト育成事業 (R3 強化指定選手8人) <p>2-2 ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「YAMAGATAドリームキッズ」の発掘・育成(14期生として新たに30人認定) 国体やインターハイ、国際大会等で活躍する選手の強化 ▶修了生・在籍生の全国大会での優勝(全日本選手権ボート競技、インターハイ競泳競技、全国中学校スキー大会) <p>2-3 スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性(インテグリティ)の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ団体のガバナンス強化やドーピング防止活動の実施 ▶競技団体コーチングスタッフ会議及び競技団体ヒアリング等での指導 | <p>メダリストの輩出 ⇒ ◎達成 メダリスト 冬季1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望選手と競技団体への重点的かつ集中的強化の継続が必要 オリンピック出場:東京2020オリンピック 5名 北京2022冬季オリンピック 6名 パラリンピック出場:東京2020パラリンピック 4名 <p>国体の天皇杯順位:全国20位台 ⇒ ×未達成 40位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年の部及び得点源となりえる団体種目の強化が課題 <p>インターハイ入賞数:夏季40以上、冬季15以上 ⇒ ×未達成</p> <p>インターハイ入賞数(夏季)46(冬季)9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間、校種間の垣根を越えて、小学生から中長期的な強化策の検討が必要 | <p>【オリンピックメダリスト育成事業】 メダリスト輩出に向けて、遠征や練習環境を整えるための支援を継続する。</p> <p>【山形県スポーツタレント発掘事業】 競技団体等と協力しながらジュニアアスリートの発掘・育成システムの継続的な推進を図る。</p> <p>【県高体連、中体連への支援】 引き続き強化費を補助し、有望選手の発掘・育成を行う。</p> <p>【指導者レベルアップ事業】 引き続き事業を推進し、指導力、競技力向上に繋げられるよう若手指導者を効果的に支援する。</p> | |
| <p>3</p> <p>スポーツを通じた活力ある地域社会の実現</p> | <p>3-1 プロスポーツの活用、スポーツツーリズムの展開等による地域の賑わいづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチーム等への活動支援と有効活用 ▶山形県スポーツ振興21世紀協会が行う入場料割引などの取り組みへの支援を実施するとともに、プロスポーツチームによるスポーツ教室などの開催に係る経費の補助を行った。 東京2020オリパラ大会の機運醸成 ▶事前合宿を受け入れたホストタウンでは地元住民との交流を行うとともに、ビデオレターやオンラインによる相互交流など工夫を凝らした交流が実施された。 <p>3-2 スポーツ施設等の整備と有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内に唯一の競技スポーツ施設への整備支援(蔵王ジャンプ台、山形市総合スポーツセンタースケート場等) <p>3-3 アスリートの県内定着・回帰及び活躍の場の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業スポーツ振興協議会による企業チーム及び選手への支援 | <p>ホストタウン交流事業への参加者数:8,000人(R2) ⇒ ◎達成</p> <p>参加者数:令和3年度 10,732人 (ホストタウン登録団体:12市2町(相手国15か国))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手国の選手・関係者との交流会や各ホストタウン自治体による交流活動のPR等を通して、相手国への理解や対象競技への理解が深まった。 <p>※東京2020オリンピック聖火リレーにおいて「YAMAGATAドリームキッズ」の10名がグループランナーを務めた。</p> | <p>【プロスポーツ等応援団体活動費補助金】 新たなファンを掘り起こし、本県の更なるスポーツの振興と地域の活性化のため、地域団体が行うプロスポーツと連携した取り組みを支援していく。</p> <p>【スポーツ施設整備支援事業(市町村総合交付金)】 引き続き、県内に唯一のスポーツ施設について支援するとともに、政府に対して財政支援の拡充を要望していく。</p> <p>【企業スポーツへの支援】 引き続き企業スポーツ振興協議会による支援を実施し、関係団体と連携しながら、アスリートが活躍できる場の拡充を図る。</p> | |